

かわとはきものギャラリー

④日本のはきもの 2.

神奈川県企業博物館連絡会顧問 福原 一郎

日本の歴史的なはきものは、中国大陸や朝鮮半島からの影響を受けたものが多く、特に貴族や文官、武官が位階によって装束に用いたものは奈良時代から平安時代に定められている。

はきものを表す文字には鳥、履、鞋、沓、鞆などが使われている。

天皇のものは鳥や挿鞋が用いられ、平安の貴族の間で行われた蹴鞠に使用したのは鴨沓で、鎌倉時代の武将が鎧着用ではくの

貫といわれる毛沓である。

奈良東大寺二月堂で春を告げる行事御水取りで僧がはくのは差懸という板底のはきものである。また各地で行われる流鏝馬に物射沓がはかれる。

日本の伝統的な儀式などに用いられるはきものは伝統工芸の技術が活かされ、漆塗や桐の木の上に錦や綾を張った豪華なものもある。 完

写真は東京都立皮革技術センター台東支所「かわとはきものギャラリー」の収蔵資料で、多くはレプリカですが、一部は実際に使用されたものもあります。

- 1 江戸時代・明治初期皇后御料沓
 - 2 奈良時代女子礼服用繡線鞋
 - 3 浅沓
 - 4 奈良時代女子通常用沓
 - 5 男子用浅沓（鳥ともよばれる）
 - 6 奈良時代男子朝服用深履
 - 7 物射沓
 - 8 乗馬用半鞆
 - 9 貫（毛沓ともよばれる）
 - 10 鴨沓
 - 11 男子礼装用鞆
 - 12 絲鞋 かわとはきもの139号「世界の靴物語」
- ⑦参照
- 13 差懸
 - 14 巾着沓（綱貫ともよばれる）



